

海外姉妹都市の提携について（提言）【案】

1 はじめに

平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議及び平成28年度稲城市海外姉妹都市検討市民会議（以下、ともに「市民会議」という）は、海外姉妹都市の在り方及び候補地の選定、海外都市との交流事業等について審議を重ね、結論を得たので提言いたします。

2 海外姉妹都市の在り方について

国境を越えた経済の結びつきの拡大や、近年の科学技術の発展などにより、人・物・情報の流れは、地球的規模に拡大しています。このような中で、海外との交流は、従来の国家間レベルの交流だけでなく、地域レベルの交流についても、その重要性が高まっています。

そして、このような地域レベルの海外交流事業は、世界に開かれた地域社会づくりを推進し、地域の活性化を図ることに繋がります。異文化と触れあうことにより、改めて稲城市を見つめ直すきっかけになり、稲城市の歴史や文化、日常の暮らしに対する新たな発見が期待され、市民生活の豊かさや地域の魅力の向上に繋がると考えます。

さらに、このような相互の国の市民同士の親睦が深まっていけば、いずれは世界平和へと繋がって行くものと考えます。

稲城市では、これまでも各種市民団体が中心となり、海外都市との交流が行われてきましたが、市としての海外姉妹都市ができれば、今まで機会に恵まれなかった方なども含め、より多くの市民が海外交流事業に参加することができるようになり、子どもから大人まで、幅広い世代が、文化交流やスポーツ交流、経済交流など、様々な交流を実施することができるようになると期待されます。

特に、将来の日本を背負っていく稲城の子どもたちには、海外姉妹都市との交流を通して、多感な青少年期に異文化と触れ合う機会を多く持ってほしいと考えています。このような体験は、語学力や積極性、国際感覚、幅広い視野を育み、将来、グローバルに活躍し、国際社会の中でたくましく生きていける人材を育成することに繋がるものと信じております。

以上のことから、市民会議としては、市民にとって「素晴らしい夢の持てる場所」として、海外姉妹都市を持つことが必要であると考え、海外姉妹都市との提携をすべきであると提言いたします。

3 候補地の選定について

海外姉妹都市の候補地については、稲城市に相応しい都市を選定するため、様々な観点からゼロベースでの議論を重ねてまいりました。

その結果、候補地選定の観点として、「青少年の健全育成ができるところ」、「教育

交流ができるところ」、「スポーツ交流ができるところ」、「文化交流ができるところ」、「過去の交流実績やきっかけがあるところ」、「英語圏であるところ」、「都市の規模が稲城市と似ているところ」、「距離が近いところ」、「治安が良いところ」という意見が多くあり、それを参考としました。

具体的な候補地については、過去の交流実績のあった都市を中心に、21の都市を挙げ、上記の観点を参考に絞り込みました。

最終的には、上記の観点到合致し、先方で稲城市との姉妹都市提携の希望があることから、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ郡フォスターシティ市（以下、「フォスターシティ市」という）を海外姉妹都市の候補地として絞り込みました。

平成29年1月11日から14日までの日程で、市民会議を代表して3人の委員による現地視察を行い、フォスターシティ市が海外姉妹都市として相応しい都市であることを確認してまいりました。

フォスターシティ市は、サンフランシスコ空港から約10km圏内にあり、サンフランシスコ・羽田間には直行便も就航していることから、渡航の利便性も良好であります。また、繁華街やダウンタウンなどがなく、全米でもベスト8に選ばれるほど安全な街であり、さらに、白人45.5%、アジア人45%という人種構成から、日本に対するイメージも良好で、市として海外姉妹都市提携を進める上では、子どもから大人まで、安心して交流を行うことができる街であると考えます。

規模としては、人口が3万人程度であり、お互いを理解するためにも、交流相手としては適度な規模となっています。さらに、市制施行が稲城市と同じ1971年（昭和46年）であり、ベッドタウンであること、水を活かした街づくりをしていることなど、稲城市との共通点も数多くあります。

また、フォスターシティ市は、青少年のスポーツ部門に大変力を入れており、市内の公園には、多くの野球場やサッカー場も整備されています。そのため、少年野球の交流をはじめ、様々なスポーツ交流が実施できるものと考えます。さらに、小中学校では、インターネットやスカイプを活用した交流をはじめ、グリーティングカードなどの手紙の交換、青少年の交換派遣など、様々な交流へと発展させていくことも可能ではないかと考えます。

以上のことから、市民会議は、フォスターシティ市と姉妹都市を結ぶことにより、幅広い住民同士の交流が可能であり、新たな出会いや友情の輪が広がり、新しい文化が創造されていくと確信いたします。

4 交流事業について

地域間交流は、一過性のものではなく継続的に行うこと、一方的でなく相互性のあることが重要であり、その交流は市民相互の交流が主体になるものと考えます。

したがって、交流事業は双方の諸課題をよく考察し、相互理解を深め、無理のない持続性を考慮したものとしていく必要があります。

想定される交流事業は、【表1】の通りとなりますが、最初から数多くの交流事業を始める訳ではなく、まずは限られた分野のできる交流から始めていき、徐々に交流の可能性を広げて行くのも良いと考えます。

なお、平成29年1月11日から14日にかけて実施した現地視察において、フォス

ターシティ市の関係者と意見交換を行ったところ、インターネットを使用した双方向で映像や会話のやりとりができる仕組みであるスカイプなどを活用し、子ども達が会話を通じてお互いの文化に触れあったり、理科の課題研究についての発表し合ったりする「教育交流」についての提案や、少年野球交流などの「スポーツ交流」についての提案をいただいていることから、まずは、フォスターシティ市から提案のある「教育交流」や「スポーツ交流」から始めるのが良いと考えます。

【表1】 交流事業

分野	内容	具体例
教育	異なる環境の中で育まれてきた生活や文化に触れ、情操教育に役立たせるとともに、語学の修得等、教育の向上を図る。また、最先端の技術（シリコンバレーの企業）を知ること、将来に夢を持つことを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット、スカイプを活用した交流 ・手紙（グリーティングカード）の交換 ・青少年の交換派遣（ホームステイ、学校訪問、部活動体験、シリコンバレーのIT企業の見学等） ・児童・生徒の作品の交換展示
スポーツ	スポーツを通じ住民相互の親睦を図るとともに、技術の向上や健康の増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・少年野球、サッカーでの交流 ・その他、各種スポーツでの交流
文化	異なる環境の中で育まれてきた生活や文化に触れることや、社会教育団体等の交流を通じ、技術の向上や文化芸術の普及を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種実施団体との交流（お琴、茶道、華道、書道、武道、獅子舞、盆踊り、陶芸、舞踊、ダンス、太鼓、写真、合唱等） ・祭りやイベントへの参加
産業	農業・商業・工業等の産業を通じ、相互の産業の発展を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民まつりでの交流 ・物産展での交流 ・農業、商工業等団体の交流
観光	観光資源を相互に紹介し合う交流を通じて、観光事業の発展を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ツアーの実施 ・観光集客相互支援
組織同士の交流	各種組織・団体の交流を通じ、相互の発展を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種組織（ロータリークラブ、国際ソロプチミスト、青年会議所等）の交流
防災・災害	防災や災害に関する情報交換等を行うことで、防災意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・災害についての意見交換 ・募金の実施
留学	語学留学（英語・日本語）等の互いの持っている分野を勉強するための留学	<ul style="list-style-type: none"> ・語学（英語・日本語）留学 ・その他留学
その他	行政職員のスキルアップを図るとともに、今後の継続的な交流に繋げる。また、市民が行きやすい環境を整えることにより、市民団体等との交流を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員等の交流 ・情報交換交流

5 おわりに

海外姉妹都市提携については、異文化と交流することで、市民の国際性や積極性を育み、また、世界への親睦を深めることで世界平和へも繋がって行くものであるとともに、自らが住む稲城市を幅広い視点で見直す機会にもなると考えます。

最後に、他市の状況を見ると、交流協会等の団体を設置している例が多く、その団体が交流に関する情報提供や、交流機会の付与といった役割を果たすことで、市民交流が積極的に展開されていると聞いています。本市においても、海外姉妹都市交流及び国内の姉妹都市・友好都市交流を担う、市民が主体となった団体の立ち上げが必要であると考えます。

平成 27 年度 稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議について

1 構成員

委員長	奈良部 義彦	(稲城市商工会)
副委員長	角田 享	(NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ)
委員	川島 幹雄	(稲城市自治会連合会)
委員	松本 一宏	(稲城市農業委員会)
委員	城所 達也	(稲城市消防団)
委員	中家 敬士	(稲城市体育協会)
委員	城所 正彦	(稲城市教育委員)
委員	粟井 洋子	(教育関係者)
委員	安東 道正	(稲城市芸術文化団体連合会)
委員	高橋 やよい	(稲城市立学校 P T A 連合会)
委員	石橋 良生	(稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会)
委員	藤田 佑二	(稲城国際交流の会)
委員	川島 保之	(東京稲城ロータリークラブ)
委員	砂塚 有子	(国際ソロプチミスト稲城)
委員	椿 克之	(稲城青年会議所)

2 検討経過

会議	開催年月日	開催場所	検討内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 27 日	稲城消防署 3 階 講堂	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状の受理 ・委員長・副委員長の選出 ・これまでの経過等について
	<p>【検討結果】 海外との姉妹都市提携について、意見交換を行った。 (主な意見の要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに素晴らしい夢の持てる場所を作ってあげたい。 ・積極的に検討すべきである。 ・スポーツを通じた市民交流ができるが良い。 ・グローバル化の中では、進めていくべきである。 ・姉妹都市提携で海外との距離を縮めていけたら良い。 ・海外との姉妹都市でどのようなことができるか、いろいろな国やまちを調べて一から検討する必要があるのではないか。 ・稲城市の海外交流の歴史を整理した上で、進めていく必要があるのではないか。 		
第 2 回	平成 27 年 11 月 25 日	稲城消防署 3 階 講堂	<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市の今までの海外交流実績について ・海外姉妹都市提携の在り方について
	<p>【検討結果】 (1) 稲城市のこれまでの海外交流実績について、行政、稲城国際交流の会、東京稲城ロータリークラブ、国際ソロプチミスト稲城、稲城青年会議所から報告を行った際、以下の意見が出された。 [主な意見の要約]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の必要性は感じた。 ・金銭的な補助を含めて考えることが必要である。 ・交流をしていくことは賛成であるが、姉妹都市になったらすぐ子どもを行かせるというのは現実的ではない。 ・姉妹都市を結ぶことで交流の選択肢は増える。 ・姉妹都市を結ぶというきっかけ論はいろいろある。 ・どういう形態の交流ができるのかということを組み立てることが、一番肝心なことである。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市になれば小さい子からお年寄りまでみんなが交流できる。 ・団体が交換留学を行うことと姉妹都市を結ぶことは別物である。 ・安心して市民が行けるような道しるべを作ってあげたい。 <p>(2) 海外姉妹都市提携の在り方について以下の意見が出された。</p> <p>〔主な意見の要約〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道、華道などの交流ができれば、我々の文化を向こうに伝えることができる。 ・グローバル社会の中で、国際社会に出ていかなければいけない時代で、青少年がもっと、海外に飛び出す機会を作れる。 ・きっかけはいろいろあるので、今回のことをきっかけに進めることでこの会議も進んでいく。 ・海外都市と交流することは良いが、姉妹都市提携ありきということには賛成できない。 		
第3回	平成 27 年 12 月 17 日	地域振興プラザ 4 階 中小会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について ・海外姉妹都市との交流について
	<p>【検討結果】</p> <p>(1) 海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について以下の意見が出された。</p> <p>〔主な意見の要約〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本との交流を希望している国は、中国が多いと感じた。 ・英語は世界的な言語になりつつあり、一番良い。 ・国際性を育むのであれば、海外姉妹都市提携は早急に考える課題である。 ・海外姉妹都市を提携するには、交流の目的が一番の課題となる。 ・英語圏と言ってもアメリカだけではない。 ・候補を絞り、検討していった方が良い。 ・英語圏に限定すると範囲が狭くなるのではないか。 <p>(2) 海外姉妹都市との交流について以下の意見が出された。</p> <p>〔主な意見の要約〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を続け、ある程度の年数を経てから提携しても良い。 ・青少年を中心とした交流を目的にしたほうが良い。 ・青少年から高齢者まで幅広く交流内容を広げると良い。 ・多く子どもたちが参加できる事業であるほうが良い。 ・スカイプなどを活用し学校同士の交流でスタートしたら良い。 ・財源も考えた上で仕組みづくりが必要である。 ・目的をはっきりさせて交流することが重要である。 ・交流は、教育、文化、経済、スポーツなどを複合的にやらないと長続きしない。 ・ホームステイは、稲城市内の受け入れ先の確保に課題がある。 ・ホームステイありきでなくても良いのではないか。 ・ホテルなどに宿泊してもらい交流することもできる。 ・場所を絞ってから交流事業を検討したほうが良い。 		
第4回	平成 28 年 3 月 24 日	地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・海外都市との交流事業等について
	<p>【検討結果】</p> <p>海外都市との交流事業を含め、今後の検討の進め方等について意見交換を行い、「海外姉妹都市提携は行う」ことが、挙手全員で一致した。</p>		

平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議について

1 構成員

委員長	奈良部 義彦	(稲城市商工会)
副委員長	安東 道正	(稲城市芸術文化団体連合会)
委員	榎本 勝美	(稲城市自治会連合会)
委員	松本 一宏	(稲城市農業委員会)
委員	城所 達也	(稲城市消防団)
委員	中家 敬士	(稲城市体育協会)
委員	城所 正彦	(稲城市教育委員会)
委員	粟井 洋子	(教育関係者)
委員	安東 道正	(稲城市芸術文化団体連合会)
委員	高橋 やよい	(稲城市立学校 P T A 連合会)
委員	石橋 良生	(稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会)
委員	藤田 佑二	(稲城国際交流の会)
委員	川島 保之	(東京稲城ロータリークラブ)
委員	砂塚 有子	(国際ソロプチミスト稲城)
委員	石井 秀樹	(稲城青年会議所)
委員	角田 享	(NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ)
委員	原 忠男	(公募市民)
委員	小山 良夫	(公募市民)

2 検討経過

会議	開催年月日	開催場所	検討内容
第 1 回	平成 28 年 6 月 30 日	地域振興プラザ 2 階 商工会会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状の受理 ・委員長・副委員長の選出 ・平成 28 年度市民会議での検討方法について
			<p>【検討結果】</p> <p>平成 27 年度の海外姉妹都市提携検討市民会議でのご意見を踏まえ、平成 28 年度の海外姉妹都市検討市民会議（以下、「市民会議」という）の検討方法を以下の通り決定し、部会の委員の選出を行った。</p> <p>(1) 検討手法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議を 5 回程度開催。 ・(仮称) 調査部会・分科会（以下、「部会」という。）を 1 つ設置し、「交流事業」と「候補地」にテーマを絞って、集中審議を行う。 ・部会の審議経過・結果を市民会議へ報告し、市民会議で交流事業や候補地について決定する。 ・部会の回数は 3 回程度。 ・部会の委員は、市民会議の委員の中から、選出分野ごとに選出。 ・候補地が絞られてきた段階で、市民会議の委員（3 人程度）で現地視察を行う。 <p>(2) 部会の委員について</p> <p>部会の委員は、市民会議の委員の中から選出分野ごとに選出し、以下の通り決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『地域活動分野』、『経済活動等分野』、『教育分野』、『文化・体育分野』、『国際交流実績団体』の 5 つの分野から、それぞれ 1 人選出。 ・『公募分野』から、2 人選出。 計 7 人で構成する。

第2回	平成28年 10月26日	地域振興プラザ2階 商工会会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会での審議の結果について ・候補地について ・現地視察について
	【検討結果】 作業部会の審議の結果を受け、「市民会議としては、海外姉妹都市の候補地をフォスターシティ市に絞って、現地視察等を進めること」が、挙手多数（10対2）で決定した。		
第3回	平成28年 12月1日	稲城消防署3階 講堂	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業について ・海外姉妹都市交流を実施する組織について ・現地視察について
	【検討結果】 作業部会の審議の結果を受け、『交流事業』については、「現地視察において、フォスターシティ市の意向や、その他の交流事業の可能性を探っていく」ことが決定し、『海外姉妹都市交流を実施する組織』については、「(仮)交流協会を立ち上げて、交流事業を実施していくのが望ましい。」ということで、「詳細については、次年度に準備会的な委員会を組織して、しっかりと時間をかけて検討を進める」ということが決定した。 また、現地視察のメンバーを決定した。		
視察	平成29年 1月11日～14日	アメリカ合衆国 カリフォルニア州 サンマテオ郡 フォスターシティ市	<ul style="list-style-type: none"> ・フォスターシティ市の関係者との意見交換 ・フォスターシティ市内視察 ・フォスターシティ市周辺の視察
	【視察結果】 ・意見交換を通して、フォスターシティ市の希望する交流としては、学校同士でのスカイプを活用した交流といった「教育交流」であることを確認した。また、様々な交流事業について積極的なご意見をいただいた。		
第4回	平成29年 1月18日	稲城市役所6階 601・602会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・現地視察報告について ・提言書について
	【検討結果】		

平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会について

1 構成員

部会長	中家 敬士	〔文化・体育分野〕	(稲城市体育協会)
委員	松本 一宏	〔経済活動等分野〕	(稲城市農業委員会)
委員	城所 正彦	〔教育分野〕	(稲城市教育委員会)
委員	石橋 良生	〔地域活動分野〕	(稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会)
委員	藤田 佑二	〔国際交流実績団体分野〕	(稲城国際交流の会)
委員	原 忠男	〔公募分野〕	(公募市民)
委員	小山 良夫	〔公募分野〕	(公募市民)

2 検討経過

会議	開催年月日	開催場所	検討内容
第 1 回	平成 28 年 7 月 28 日	地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長の選出 ・交流事業及び候補地について
	<p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業及び候補地について意見交換を行い、「フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、他に候補地にできるものがあれば並行して議論して行く」ことが、挙手全員で一致した。 		
第 2 回	平成 28 年 8 月 30 日	稲城市役所 6 階 602 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果等について ・フォスターシティ市について
	<p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲城市民の持つ海外ネットワークの調査（調査対象：稲城国際交流の会の会員、いなぎ IC カレッジ市民ボランティア理事及び市民ボランティア講師）の結果を基に、市民の国際化の現状を検討するとともに、当該アンケートで提案された「稲城市と姉妹都市関係を結ぶと良いと考えられる都市」及び、次回の作業部会までに各委員から提案される都市を、候補地検討リストとしてリストアップすることになった。 ・フォスターシティ市との交流事業等について意見交換を行い、「次回の会議で、フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、フォスターシティ市と並行して議論していく他の候補地について絞り込みを行う」こととなった。 		
第 3 回	平成 28 年 9 月 29 日	地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・海外姉妹都市の候補地の絞り込みについて
	<p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外姉妹都市候補地検討リスト（21 都市）に基づき、候補地の絞り込みを行い、第 1 回目の作業部会で候補地としたアメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市に加え、イギリス ウェールズ スウォンジー市と、オーストラリア クイーンズランド州 ケアンズ市を候補地として選定した。 ※海外姉妹都市候補地検討リスト（21 都市）内訳 ①昨年度から継続審議されている都市（6 都市） ②アンケート調査により、IC カレッジの方から提案された都市（2 都市） ③新たに作業部会の委員から提案された都市（13 都市） 		
第 4 回	平成 28 年 10 月 13 日	地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業について ・海外姉妹都市交流を実施する組織について
	<p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業を議論する中で、候補地を限定しなければ議論にならないとの意見があり、作業部会として、第 1 回部会で決まったとおり、候補地はフォスターシティ市と確認した。 なお、スウォンジー市とケアンズ市は次点候補とし、今後立ち上げる予定である（仮）交流協会において、将来的な交流事業の 1 つとして検討することは可能という結論となった。 ・海外姉妹都市提携後は、交流事業を進める実施主体として、（仮）交流協会を立ち上げていくのが望ましい。 		

